

IT技術の発展に貢献できる 企業をめざして



常務執行役員
小谷 武福
Taketomi Kotani

インターネットは技術の進歩と低コスト化に伴って急速に進んでいます。電子メールやホームページの普及が5～6年ほど前に始まり、わずか数年の間に急速に企業の中に取り入れられました。いまや多くの企業で個人個人がメールアドレスを持ち、日常業務の中で頻りに利用されるようになりました。これらの技術は未だ成長段階にあり、今後の数年で大きく変貌すると予測されています。

現在の電子メールはキーボード操作が必要なこと、文字の打ち込みに時間を要する割には細かなニュアンスを伝えるににくいなど問題も残っています。このため数年後には、例えば「発信者の顔が動画で映り言葉を喋る」いわゆるビデオレターのような電子メールも生まれ、また、商品販売などのホームページは商品画像を縦横左右に自在に動かしながら品定めをしつつ電子決済で購入するとか、ビデオテープをレンタルしないでインターネット網から映像情報を自宅の端末に短時間で取り込んで映画を見ることや、すでに放送されたニュース番組などを自由な時間に見ることも可能となるでしょう。あわせて放送との双方化も進むでしょう。当然、操作性の良い端末も生まれ、これまで端末操作を敬遠していた人達も簡便にこれらが利用できるようになるでしょう。

これらの技術の個々の要素は一部を除けば基本的には利用可能な段階にきています。キーとなるのは、現在の電子メールやホームページなどとは比較にならないほどの大量な情報(データ)を高速に授受できる仕組みが、利用可能なコストで提供できるかにあります。昨今のIT技術の目覚ましい進歩でにわかに可能な方向となってきました。

髪の毛のほどの大きさの光ファイバー1本当たりの伝送速度が、この10年で、陸上では200倍以上に、海底ケーブルでは2千倍以上に向上し、伝送情報を配分するルータの速度も100倍以上の高速化が図られつつあります。このように大量データを超高速で送ることが可能となったため、にわかに大量データの集配などを行うデータセンター構築の動きが活発になってきました。

データセンターでは瞬時に大量なデータを取り扱うため、通信装置の信頼性はもとより、これらへ電気を供給する無停電電源の信頼性も極めて重要になります。また、高速化に伴って通信装置が高密度実装化されるため装置から発生する大量の熱放散が課題となり、冷却用ファンの能力向上と信頼性が装置全体の信頼性を左右するとも言えます。また、一方では高速で大量のデータ容量を受信できる端末機器への取り替え需要を生み、端末機器メーカーの生産ラインも増えると考えられます。

私たち山洋電気には、高信頼の無停電電源、高信頼ファン、工場の生産ラインで使われる多機能サーボモーター・コントローラなどの分野でこれまで培った信頼性の高い技術が

あります。今後も、一歩先の技術開発に積極的取り組み、これからの時代の要請に総力をあげて応えたいと思っています。
